

授業科目 微生物学実習

【担当教員名】 尾崎 京子、名古屋 洋	対象学年	3	対象学科	臨床	
	開講時期	後期	必修選択	必修	
	単位数	1	時間数	45	
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	◎	
【概要・一般目標：GI0】 ・微生物の生態を理解する。 ・病原性微生物を安全に扱うための手技と倫理観を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 適切な消毒・滅菌処理を行う。 2. 無菌操作を確実に習得する。 3. グラム染色標本の作製と顕微鏡観察を実施する。 4. 各種細菌にふさわしい培養・検査方法を列挙し、実践する。 5. 薬剤感受性検査の結果から、各種細菌の抗菌薬に対する有効性について説明する。 6. 確認試験の結果から菌種の推定・同定ができる。 7. 各種細菌と感染症の関連について述べる。 8. 検査材料別に適した検査手順を進めることができる。					
回数	授業計画・学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1.2	実習室の使い方、消毒と滅菌方法、機器の使用法、培地作成法		1	講義・実習	
3.4	無菌操作方法、分離培養法、確認培地の接種法		1,2	講義・実習	
5.6	コロニー観察、細菌染色と顕微鏡観察、正常細菌叢の判定		3-4	講義・実習	
7.8	グラム陽性球菌の同定		3-8	講義・実習	
9.10	グラム陰性球菌の同定		3-8	講義・実習	
11.12	腸内細菌科の同定		3-8	講義・実習	
13.14	ビブリオ属の同定		3-8	講義・実習	
15.16	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の同定、ヘモフィルスの同定		3-8	講義・実習	
17.18	レジオネラの同定、カンピロバクターの同定		3-8	講義・実習	
19.20	グラム陽性桿菌の同定、抗酸菌検査		3-8	講義・実習	
21.22	嫌気性菌の同定、真菌の同定		3-8	講義・実習	
23	薬剤感受性検査、 β -ラクタマーゼ検査		3-8	講義・実習	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		微生物検査学 実習書	日本臨床検査学教育協議会	医歯薬出版	2012・3,600円＋税
参考書		臨床微生物検査 ハンドブック	小栗豊子	三輪書店	2011・5,000円＋税
		微生物検査ナビ	堀井俊伸、犬塚和久	栄研化学株式会社	2013・3,800円＋税
その他の資料					
【評価方法】 ・レポート：10%（目的、方法、結果、考察、感染症との関連、検査材料との関連について記載されているかどうかで評価する。欠席した場合のレポート提出は評価対象としない。） ・実技試験：10%（基本的技術の習得の度合い、確認培地を正しく判定できるかどうかで評価する） ・定期試験：80%		【履修上の留意点】 ・実習中の感染防止のため、実習における注意事項を良く守り、無菌操作に習熟することがなにより大切です。 ・実習は実習衣（白衣、白長ズボン）、実習靴、予防具（キャップ、マスク）を着用します。 ・実習中、指導教員の指示に従わない場合は実習を認めないことがあります。 ・実習室内への携帯電話（スマホを含む）やPCの持ち込みは禁止します。 ・前期に行った講義内容を実践することが後期の実習です。講義内容の理解を深め、技能を確実に身につけて下さい。 ・参考書は図書館に配備します。実習時間の不足のため、臨床検査材料の実習がほとんどできません。参考書で補ってください。			